

## 2011.2.23「身内から見捨てられた菅政権」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日、菅政権が発足してから二回目の党首討論が行われました。今日の菅総理の発言や答弁は、前回にも増して支離滅裂な答弁であり、私はこれが最後の党首討論になるのではないかという気がしました。谷垣総裁に対する答弁において菅総理が「谷垣さん、あなた方は我々の予算に反対して予算を通過させないようにしているが、問題を放置して国民生活を壊していいのか」と発言されたのに対して、谷垣総裁が「我々は民主党の随分前から政策を提言しているし、衆議院の採決前に予算組み替えの動議で対案を示します」と答えたと、菅総理は「我々が丸呑みできるような予算案を組み替え動議を出してください」と答えられましたが、野党の案を丸呑みすると言うことは、彼らは政権政党という自覚が無く、また仕事を放棄していると言えます。

現在民主党は政権政党であり、政府でもあるわけですから、菅総理が全ての政策を判断する権限を持っています。しかし、野党の政策を丸呑みするのであれば政権を執る資格はなく、政権を放棄して下野しなさいと言わざるを得ません。「野党が良い案を出してくれるのであれば、それを丸呑みします」という彼らの心境は、政策は何でも良く、場合によっては自民党を含めて野党の言うことも聞きますから、とにかく私達の内閣だけは残してくださいと言うことなのです。そのような事を言ってしまったことすら、菅総理は理解していないの

です。つまり彼らには政権担当能力は全く無く、菅総理は野党の党首にはなり得るけれども、政権政党の総理という重職が務まる人ではなく、今だにその事自体が分かっておられないということです。

実は、これに当てはまるのは菅総理だけではありません。彼の周囲にいる役人の幹部もそうなのです。このような答弁を菅総理がしてしまった場合、普通は「菅総理、そんな答弁をしてはなりませんよ」と諫める筈なのですが、その場におられた民主党の議員は皆そこで拍手をしたのです。この方々は一体何に対して拍手をしたのでしょうか。私は、菅総理が自らの発言の意味を理解していないことに驚いていましたが、それを支えている民主党の皆さん方も同じように菅総理の発言の危うさが分かっていないことに呆れてしまいました。菅内閣だけでなく、民主党自体が政権政党以前に、政党としての体をなしていないということです。

そして、それをより印象付ける事がありました。今日の党首討論は参議院の主催で行われました。この会場に私は 20 分前から席を取るために会場に入っていたのですが、民主党側、政府与党側はほとんど誰も来ていませんでした。党首討論が始まっても与党の傍聴席に空席が目立ち、菅内閣は民主党の身内からも見放されている感じがしました。今回の党首討論では、民主党の傍聴席からはほとんど拍手すらなかったのです。本当にしら一っとした雰囲気でした。冒頭で言いましたように、恐らくこれが参議院で最後の党首討論になると思い

ます。次は衆議院に場所を移して党首討論が行われることになりと思いますが、その次の党首討論をしようにも、党内基盤が無くなり開催できないのではないかという気さえしました。

さて、今衆議院で予算の審議が進められています。来月初め位に採決がされるでしょうが、その後は参議院側に来ます。参議院に来ましたら、私も徹底的に今の内閣の問題点を取り上げたいと思っています。役割分担があるため、私を取り上げるテーマがまた政治とカネになるかもしれませんが、それによって政権を追い詰めることにもなるでしょう。しかし、民主党の様々な政策の問題点の中でも、私が一番取り上げなくてはならないと思っていることは、特にデフレの状況にあるにもかかわらず、デフレを加速させるような政策をしているということです。本当はこの問題点を予算委員会でも追及していきたいのです。

これから参議院に回って来ましたら、衆議院の中井委員長のように出鱈目の委員会運営はさせず、徹底的に民主党政権の問題点を暴いていきたいと思っています。今後とも皆さん方のご支援よろしくお願いいたします。ありがとうございました。